

令和2年度 特別支援学校寄贈物品 使用状況報告書【2年目】

P T A名	静岡県立静岡北特別支援学校 P T A
学 校 名	静岡県立静岡北特別支援学校 <input type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input checked="" type="checkbox"/> 知的障害 <input type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱
設 置 部	<input type="checkbox"/> 幼稚部 <input checked="" type="checkbox"/> 小学部 <input checked="" type="checkbox"/> 中学部 <input checked="" type="checkbox"/> 高等部
全校児童・生徒数	398人

1. 使用状況

寄贈物品名	屋外複合遊具
使用学年及び人数	小学部1年～6年 131人
使用頻度	週4日
使用状況	週4日(火～金曜)の昼休みで使用。 10月までは3年生以上の使用であったが、低学年が使用していたプレイグラウンドにプレハブが建設されることになり、小学部全学年が各曜日三学年ずつ割り振りをして使用するようになった。 また低学年が遊具の使用開始するにあたり、9月に低学年が『運動場であそぼう』の授業を行い、遊具での遊び方、安全な遊具の使い方、遊ぶときの簡単な約束などを学習する時間を設定した。
物品の使用による変化や効果	遊具の各コーナーで以下のような児童のあらわれや変化が見られた。 ・滑り台…友達が滑り終わり立ち上がるのを待って次の児童が滑り出すようになり、児童自身が安全に気をつけて遊ぶ姿が見られるようになった。 ・肋木…昨年度は台上から飛び移れず、教師が下から体を抱え、支えて遊んでいた。二年目になり、身体の動かし方を覚えて、自分で台上から肋木に飛びつき降りることができる児童が増えた。 ・遊具の下段を通ったり、下をくぐったりして、遊具の周囲のスペースを使いながら、鬼ごっこや追いかけてっこをする様子が見られ、走り回りながら段差に合わせて足を上げる、飛び越えるなどの動きがスムーズにできるようになった。
今後の活用の見通しや課題	今後も昼休みを中心に遊ぶ中で、たくさん身体を動かし、身体を動かすことの楽しさを十分に味わうことができるよう活用していきます。
その他希望や所感など	小学部児童の昼休みの楽しみとなる遊び場になっている。 子どもの実態に応じて、難易度が選択できるようにコーナーが複数配置されていて今後も子どもと教師が楽しく関わりながら遊べる場として、大切に使用していきたい。

2. 活用の様子

【昼休みの始まり】

昇降口から運動場の端にある遊具に向かってまっしぐら。大好きな滑り台を滑るために、初めは苦手だったネット登りができるようになりました。



【登り棒に登れるようになった児童】

初めてできたときには教室に戻ってからも「登ったね。」と自分から担任にうれしそうに伝える姿が見られました。



【肋木も人気】

遊具裏側にある肋木にも児童が集まってきます。登った後、平行移動したり友達と交差して登ったりといろいろな動きを楽しんでいます。



【こんな使い方も…】

友達と遊具の周りで追いかっこをしています。遊具の下をくぐったり、ときには滑り台の陰に隠れてみたりと工夫して遊ぶ姿が見られます。

